

平成 17 年度 秋期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 試験

問 1

設問	解答例・解答の要点				備考
設問 1	要件変更による納期遅延，予算超過を防ぐため				
設問 2	(1)	担当者同士で勝手に変更を行うことを防ぐため			
	(2)	要件変更が契約納期又は契約金額に影響する場合			
	(3)	a 決算の早期化が実現されるかどうか			
設問 3	(1)	チーム X	D	リスク	納期が遅延するリスク
		チーム Y	E	リスク	・コストを回収できなくなるリスク ・変更要求が否決され，手戻りとなるリスク
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急な変更要求票を早期に回覧する方法を定める。</li> <li>・緊急時の変更プロセスを定める。</li> <li>・緊急の際の臨時 CCB 開催のルールを定める。</li> </ul>			

問 2

設問		解答例・解答の要点					備考
設問 1	(1)		・選定の手順や判断基準が不明確である。 ・R 社へのチェックが甘くなりがちである。				
	(2)	・選定の基準を客観的に整理する。 ・選定に当たっての観点の漏れをなくす。					
設問 2	(1)	T 社	リスク	適正な要員がタイムリに集められない。	項目	開発要員の動員力	
		U 社	リスク	社員への支払ができず開発が滞る。	項目	財務面の健全性	
	(2)	問題が発生しても納期までに対応する期間に余裕がもてる。					
設問 3	(1)	リスク	品質劣化や納期遅延が発生する。				
		方策	R 社と T 社，U 社との共同開発				
	(2)	項目	資本金				
		理由	下請法の対象企業であることを明確にする。				
	(3)	・定義された手順と基準に基づき委託先が選定される。 ・委託先選定の手順と基準が開発標準に組み込まれる。					

問 3

設問		解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	B 社が開発した同種システムの実績データから類推して評価するなど，類推による評価方法について，適切に記述していること		
	(2)	内部設計後に性能評価して最終構成を確定するなど，適切な時期に再度性能評価することについて，適切に記述していること		
設問 2	(1)	対策案 1	開発日程に余裕はあるが，A 社予算の余裕が少ない。	
		対策案 2	開発日程に余裕が少なく，A 社予算に余裕がある。	
	(2)	解決策を上位管理者に提案して折衝への参加を要請するなど，上位管理者と協力した組織的なこう着状態の打開策について，適切に記述していること		
設問 3	(1)	・ソフトウェア改修によって新たなバグが発生して，稼働開始ができない。 ・ソフトウェア改修によるデグレードで，稼働開始ができない。 ・改修後のテスト期間が十分確保できず品質が安定しない。		
	(2)	性能対策せず稼働開始し，並行してソフトウェアを改修するなど，リスクの高いソフトウェアの根本的な対策は行わず稼働開始し，稼働開始後にソフトウェアを改修して対策することについて，適切に記述していること		
	(3)	・このまま稼働しても約 1 年間は性能的に問題ない。 ・当面は性能が問題となるほどの負荷状態にはならない。		

問 4

設問		解答例・解答の要点	備 考
設問 1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合テスト環境の不具合を早期に摘出でき，総合テスト環境の品質を確保できる。</li> <li>・ 要員がテスト環境に慣れ，戸惑いなどなく，効率的にテストを実施できる。</li> </ul>	
設問 2	品質面	改修箇所を少なくし，不具合が混入する可能性を低減させる。	
	費用面	改修量を抑え，作業工数を少なくすることで費用を抑える。	
設問 3	(1)	総合テスト開始までに改修が完了しない。	
	(2)	総合テストのシナリオの実施予定に間に合うように，段階的に改修を完了させる。	
	(3)	M 社が依頼に対応できない場合でも，計画どおりにサービスを開始させるため	
	(4)	仕様変更が請負契約の範囲外であるから	